

五小っ子

令和元年度 学校便り第18号 (12月19日)

島原市立第五小学校
校長 永田 俊文



いのち **学校教育目標**
『生命を大切にし、進んで学ぶ
心身ともにたくましい子どもを育成する』
○ やさしさいっぱい ○ かしこさいっぱい ○ たくましさいっぱい
教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で力を
合わせ、日々の教育活動に取り組みます。

『怒(ど)』と『恕(じょ)』

今の時期としてはやや暖かい日が続いて
いますが、22日(日)は、二十四節気の
第22「冬至」です。



冬至の日には、ゆず湯で温まって美味しいかぼちゃをいた
だきたいものです。

さて、早いもので今年も残すところ10日余りとなりました。
子どもたちも25日(水)から冬休みに入ります。

終業式ではいつも増して「**自分の命は自分で守る**」事
の大切さを伝えたいと思います。

昨年も同じ時期に掲載しましたが、毎年お伝えしたい文章
ですでお付き合いください。

ある雑誌に目を向けていましたら、「怒と恕」という次のような文章に出会いま
した。私自身大いに反省させられましたのでお歳暮代わりに紹介します。

・・・『恕(じょ)』: 漢和辞典では「相手に対して自分がどれだけ優しさ、ぬくも
り、思いやりをもっているか、その量をいう」となっていました。「忠恕」「寛恕」
などの言葉が紹介されていました。

私はこれまで「怒」という文字は多く見かけましたし、使うこともたくさんあり
ましたが、「恕」の文字は見かけることも少なく、恥ずかしいかな使うこともほと
んどできませんでした。

漢字事典で調べてみますと、『怒(ど)』は「強く心を緊張させること。いかる、
おこる」という意味であり、「激怒」「憤怒」などの言葉が紹介されています。
「恕」については、「如」は「汝」(自分とペアをなす相手)と同系の言葉で、自分
と同じような対者という意味を含み、「相手を自分と同じように見る心のこと」と
なっています。

「又」にするのか「口」にするのかによって、「相手に対して、いかる心」になっ
てしまうのか、それとも「相手を優しさ、ぬくもり、
思いやりをもって接する心」になるのか、大きく異な
ってしまいます。

今、親御さんや街の皆さんは、子どもたちに接する
とき、どちらの文字で多く接していますでしょうか。

私自身の経験では、親として、自分のペースに子
どもを合わせようとしている時は「怒」の文字が多くな
っていましたし、期待をあまりにも強く寄せている時
も「怒」でした。

—右頁へ続く—



又、子どもが赤ちゃんの時期は「怒」で中学・高校生
になってくると「怒」が多くなりました。おじいちゃん
やおばあちゃん、近所の方はどちらかというと「怒」の
文字だったと思います。子どもは「怒」と「怒」の中
で育っていたと思っています。

私自身が行った「怒」についても、いくつかの種類が
あったと思っています。子どもの意向を無視して、一方
的に頭ごなしに感情そのものを子どもにぶつけてしまう
「怒」と、冷静に親としての怒り、さらには人として許
せないという怒りを見せる「怒」とがありました。

私は、親として時には感情を直接ぶつけてしまう「怒」
であっても、それまでの育ての過程に「怒」があり、子ども自身がそれを感じ取っ
ていれば、その「怒」も受け入れられるものだと思っていますが、いかがでしょう
か。

「愛されている」「守られている」と感じ取っていない中での親の「怒」が繰り
返されると、深い心の傷となって「生を受けた喜びどころか生への悲しみ」を持っ
てしまうと思います。このような時、子どもたちはどこかに「恕」を求めます。
その「恕」が子どものまわりにあれば、その子を支えることになります。学校の友
達であったり、先生であったり、おじいちゃん、おばあちゃんであったり、街のイ
ベントであったり、ボランティア活動であったり。或いは、人による見守りではな
いが、なにかその子にとって気持ちの安らぐ物、場所であってもよいと思います。
子どもを育てるには、各家庭の中と外に、即ち家庭と隣近所、地域と学校に「怒」
と「恕」とがあり、それが連動していることが良いことだと思っています。

ところが、昨今は地域に「恕」を求めることは、難しいのが現実です。例えば、
子どもたちに「しっかりあいさつできるね」「よくゴミ出しをしているね」と褒め
る言葉をかけることはあるでしょうか。街の中で取り囲まれるいくつかの活動や行
事に子どもが家族と参加し、そこで汗を流したことや担当の仕事をやりきったこと
を認めるという場面がたくさん設けられているでしょうか。特に、思春期の子ども
たちに。こうした中で、子どもたちが「恕」を感じ取れば、もし家の中で「怒」
と遭遇することが多いとしても、それを振り切ることができると思います。

子どもが生活する場面である家庭と隣近所、地域と学校の中に、子どもに向かっ
ての「怒」と「恕」の文字を、特に「恕」の文字をもっともっと普及していきた
いと思います・・・

『恕(じょ)』の文字を第五小学校にも各家庭にもたくさん増やしたいですね。
来年はきっとそういたしましょう。



令和2年が皆様にとって幸せな良い年となりますように！！